

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	社会福祉法人京都長尾会 せいかだい保育所	施設 種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 7 年 1 月 28 日

総 評	<p>せいかだい保育所は、閑静な住宅地の中、平成17年4月に公設民営保育所として開設しました。以降、地域のニーズに応え続け、小規模保育事業や放課後児童クラブを開設したり、新たな事業として法人関係者が立ち上げた農作事業と連携し、地元で採れた新鮮な野菜を給食や園内の販売所で安価で提供したりするなど様々な活動を行い、地域にその成果を還元しています。</p> <p>「一人ひとりの自立支援」「一人ひとりの自律支援」「共育ち支援」を保育理念に、子どもから湧き出る興味や関心を受け止め、人間性・創造性豊かな子どもの成長を目指し、日々保育実践に勤しんでいます。</p> <p>地域に向けた開かれた園運営を行われており、地域の高齢者の方々にボランティアを招き、子どもたちに様々な経験や人間関係を築く機会を設けると共に、地域の方々に生きがいや新たな関係性を提供する拠点として存在しています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ボランティアを招き、主に5歳児クラスを対象に、縫いものやコマ回しなどの体験活動を通じた交流が行われ、子どもたちに実践的な学びと地域との絆が育まれています。また、絵本読み聞かせのボランティアも月1回実施され、ここでも地域の方と子どもたちとの交流の場を設けています。これらの取組は地域全体で子どもの成長を見守る環境の形成の一助となっています。 ● 月に1回程度という頻度で、小学校と連携する機会を持ち、小学校教員と会議や合同の研修に参加するなど、相互理解を深めています。 ● 収穫したものを、園庭で焼いたり炊いたりして食すといった活動を取り入れ、食に対する興味・関心を高めています。さらに、「無人スーパー」というものが玄関に設置され、保護者と子どもが収穫された野菜を囲んで会話を楽しむといった食育も進められています。

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<ul style="list-style-type: none">● 法人として中・長期的なビジョンを明確にした中・長期計画が策定されており、中・長期的な収支の見通しについても理事会で検討・報告が行われており、一定の財政的視点を持った運営が図られています。ただし、収支に関する計画書としての明文化はされておらず、今後は、より体系的な計画としての整備を行うと、より良いでしょう。● 園児管理システムの導入により全職員が子どもの記録を閲覧できるようになっています。保育の実施状況の記録は職員によって差異のないように管理職が点検をしています。今後は、一人一人の職員が同質の記録を残せるよう、記録のルール化や相互確認などの取組をされるとより良いでしょう。
---------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	社会福祉法人京都長尾会 せいかだい保育所
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	令和7年1月28日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	a

[自由記述欄]

1: 保育理念および基本方針については、入園のしおり(重要事項説明書)に明文化されており、職員会議や園内研修を通じて職員への周知が図られています。また、利用者には入園説明会での説明に加え、ホームページへの掲載や保育室・職員室への掲示により、広く理解促進に努めています。さらに、地域の行政会議などでも理念等を記載した資料を共有しており、関係者全体への周知が効果的に行われています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	a

[自由記述欄]

2: 施設長は、社会福祉事業全体の動向を常に把握するよう努め、的確な認識を持てるよう、子育て支援会議や地域五ヶ園と行政で行われる会議などで得られる情報を基に地域の利用者ニーズを的確に捉え、町行政に対してその検討を働きかけるとともに、行政と連携しながら課題分析を行うなど、地域全体を視野に入れた経営状況の把握と分析が行われています。

3: 施設長は、日頃から経営状況を的確に把握し、課題が明らかになった場合には速やかに会議等を通じて職員に共有し、改善に向けた取組を進めています。特に、保育士不足や産休・育休取得者への対応など、職員体制に関する課題についても事前に認識し、代替職員の確保や職員の定着につながる取組に努めるなどの対応を行っています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	a
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	a

[自由記述欄]

4: 法人として中・長期的なビジョンを明確にした中・長期計画が策定されており、重点項目を設定しながら具体的な施策も盛り込んでいます。また、中・長期的な収支の見通しについても理事会で検討・報告が行われており、一定の財政的視点を持った運営が図られています。ただし、収支に関する計画書としての明文化はされておらず、今後は、より体系的な計画としての整備を行うと、なお良いでしょう。

5: 中・長期計画を踏まえて単年度の計画が策定されており、日々の運営において一定の方向性が示されています。中・長期の視点から計画立てた単年度の収支計画の策定と共に、町行政の理解のもとに具体的な数値目標を反映できるよう動んでいます。今後は、策定した事業計画と収支計画の関連性を明確にし、事業計画に数字の面で具体性を持たせられるとより良いでしょう。

6: 単年度の事業計画においては、全体的な計画をはじめ、保育計画・食育計画・保健計画など各分野で職員が参画しながら半期ごとに見直しを行い、その結果を次年度の計画に反映させています。

7: 事業計画については、年度初めに全家庭へ全体的な計画を配布し、保護者への周知と理解促進に努めています。また、施設拡張や新たな取組についても園長通信や園だより、町の広報誌などを通じて情報発信を行い、ホームページからも事業計画が閲覧できるなど、広く情報の発信に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	b

[自由記述欄]

8: 保育の質の向上に向けて、年2回の保育士自己評価や年1回の園内評価委員会による保育所自己評価が実施されており、組織的な取組がなされています。定期的に第三者評価も受診し、客観的な視点からの見直しも図られています。また、月案を通じて職員一人一人が自己評価を行い、翌月の保育に反映する仕組みも取り入れています。

9: 前回の第三者評価の結果を受け、課題となった点について一定の改善が図られており、園内での取組が行われています。保育所の自己評価では園内評価委員が評価を行い、各クラスや関係職員へフィードバックを行うことで、現場での改善につなげています。今後は、改善実施計画を策定し、定期的な評価と見直しを行うとより良いでしょう。

Ⅱ 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-1 管理者の責任と リーダーシップ	Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	b

[自由記述欄]

10：施設長は、自らの役割や責任を明確に認識しており、日常的な会議や研修の場を通じて職員に対して丁寧な説明・共有に努めています。また、不在時の権限委任に関しても明文化し、自らを含めた職務分担に関して保護者へも啓発を行い役割の明確化を行っています。

11：施設長は、福祉サービスや人権、コンプライアンスなど、順守すべき法令等について正しく理解するために積極的に研修に参加し、地域会議や他の民間保育園の施設長などと情報交流を積極的に行うことで自らの知識と意識の向上に努めています。また、職員への周知や指導にも力を入れており、組織全体での法令遵守体制の強化が図られています。さらに、公益通報の窓口を設置することで、職員が安心して不正や不安を相談できる環境を整えており、コンプライアンス意識の定着に努めています。

12：施設長自ら保育現場に関わりながら実践的な指導を行っています。また、職員の専門性向上にも力を入れており、山城ブロック園長会主催のキャリアパス研修制度を立ち上げ、代表としてその運営を担うほか、自ら講師として登壇するなど、積極的な取組を行っています。さらに、職員の勤続年数や希望に応じて大学院進学への支援も行っており、保育者の成長を後押しする指導力を発揮しています。

13：施設長は人事、労務、財務の各分野において状況を把握するよう努めており、自ら現場に参加するなど、数字だけでは見えない実情の理解にも励んでいます。また、業務の効率化を図るためにIT化を推進し、タブレット端末や保育支援システムの活用により職員の負担軽減に努めています。課題として認識されている保育士不足や代替職員の確保において、現在行っている人員配置の工夫などで安定した運営を維持に努めると共に、今後は、人材確保計画などの策定を行い、計画的な課題改善に取り組まれると、より良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅱ-2 福祉人材の確保・ 育成	Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事 管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	b
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

14：中・長期計画の中に人材確保を明確に位置づけ、就職フェアへの積極的な参加など具体的な取組が実施されています。また、新人職員に対してはメンター制度を導入し、丁寧な指導を通じて定着と育成に努めています。今後は、より体系的かつ実効性のある人材確保に向けた具体的な計画の策定を行うとより良いでしょう。

15：事業計画の中で職員キャリアパスを策定し、施設として期待する職員像を明確にしています。一人一人の職員に対しては「京都保育人材キャリアパスポート」を活用した育成評価シートを用い、単年度ごとの具体的な職務目標を提示し、評価を行っています。これにより、職員一人一人の成長や役割の明確化が図られ、計画的かつ組織的な人材育成と管理が実践されています。

16：職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいます。有給休暇については、希望に応じた取得が100%可能となるような人員配置を行っており、パート職員にはワークシェア制度を導入するなど、柔軟な働き方を支援しています。さらに、職員の趣味を活かしたヨガ教室など、福利厚生と余暇活動を結びつけた工夫も見られ、職場の満足度向上に貢献しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b	

[自由記述欄]

17：職員一人一人の育成に向けて、京都保育人材キャリアパスポートを活用した育成評価シートを導入し、単年度ごとの期待される職務を明確に提示しています。また、職員自身が設定した目標に基づき、年2回の面談を通じて振り返りと評価を行うことで、一人一人の成長を支援する仕組みが整っており、職員が主体的にキャリア形成に取り組む姿勢を育くむと共に、継続的な育成環境の充実が図られています。

18：職員の教育・研修に関する基本方針や計画が、事業計画の中で策定され、職員に対して周知し実施されています。研修受講後、各職員は研修報告書を作成し、園全体で共有できるファイリング体制が整備されていることから、学びの成果が組織内に反映されやすい仕組みが確立されています。また、職員が受講しやすい環境を目指し、保育所内で受講可能な山城ブロック園長会主催のキャリアパス研修を各研修計画に組み込むことで、継続的な成長とキャリア形成を促進する取り組みとしています。

19：事業計画に基づいて策定された研修計画を基に、できる限り多くの職員が研修に参加できる機会を確保しています。加えて、経験年数に応じたキャリアパス研修にて、各職員に必要な分野が明示され、積極的に研修に参加できるよう情報を提示しています。これにより、一人一人のスキル向上とキャリア形成を促進しつつ、組織全体の専門性の底上げや保育の質の向上につなげています。

20：実習生等の受け入れマニュアルを策定し、統一された基準のもと実習生を受け入れています。また、各実習生に対して個別の実習計画を立案し、わかりやすいプログラムを提供することで、実践的な学びを支援しています。今後は、指導を担う職員間でのスキルの差や対応のばらつきが生じないように、職員向けのマニュアルの精査や実習指導の研修に取り組まれると、より良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	a
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	a

[自由記述欄]

21：ホームページを活用して事業計画、財務情報、第三者評価の受信結果などを公開しています。また、入園のおしりや施設内掲示で苦情解決の体制について周知を徹底しています。さらに、地域の施設会議や子育て支援会議において理念やビジョンを積極的に発信し、幅広い関係者への情報提供と透明性の向上が図られています。

22：顧問弁護士、税理士、会計士などの専門家の助言・確認を積極的に受け、公正な意思決定を図っています。また、職務分担表において事務や経理の役割と責任を明確に定め、全職員に対して周知徹底に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
		24	② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
		26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a

[自由記述欄]

23：地域ボランティアを招き、主に5歳児クラスを対象に縫いものコマ回しなどの体験活動を通じた交流が行われ、子どもたちに実践的な学びと地域との絆が生まれています。また、絵本読み聞かせのボランティアも月1回実施され、ここでも地域の方と子どもたちとの交流の場を設けています。これらの取組は地域全体で子どもの成長を見守る環境の形成の一助となっています。

24：ボランティア受け入れに関する基本姿勢が明確に示され、マニュアルの整備により受け入れ体制がしっかり確立されています。シニアボランティアのみならず、学生や保護者など多様な層のボランティアを積極的に受け入れており、地域の中学生に職業体験、高校生に職場体験インターシップも毎年実施しています。

25：特別な支援が必要な子どもについては、発達支援センター、NPO法人の発達支援教室、精華町子育て支援課や保健師との連携を通してきめ細かな支援に努めています。また、疾患を持つ子どもに対しては主治医と連携し、必要な医療ケアを提供しています。さらに、要保護家庭については毎月町行政と情報共有し、丁寧な個別支援体制が確立されるよう努めています。

26.27：未就園児向けのチャイルドひろばや親子英語教室、産後ケア事業を通じて子どもと保護者の健康支援に取り組むほか、一時預かりや育児相談、保育料免除による経済的支援も実施しています。親子が参加できる芋ほりやDIY、ヨガなどのイベントを定期的に開催し、SNSで情報を発信することで地域の方へ参加を呼びかけています。さらに、高齢者には月1回の健康体操を提供し、心身の健康維持や社会参加を支援するなど、地域に根ざした保育所運営を行っています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	a
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	a
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	b	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a

[自由記述欄]

28：保育理念や基本方針に「一人ひとりの子どもを尊重する」姿勢を明示し、職員が常に意識できるよう取り組んでいます。更衣室に保育士倫理綱領を掲示し、職務前に確認する習慣を通じて倫理観を共有できるよう工夫しています。また、人権に関する外部研修への積極的な参加や、異年齢クラス間での意見交換を行う園内研修を通じて、さまざまな視点を尊重する風土が形成するよう努めています。

29：園では、プライバシー保護や虐待防止など子どもの権利擁護に関するマニュアルを整備し、職員が共通の認識のもとで保育にあたっています。着替えやおむつ替えの際にはプライバシーへの配慮を行いながらも、子どもが孤立感を抱かないよう環境や声かけにも工夫が見られます。さらに、要保護児童については行政と連携し、定期的に情報共有を行うなど、丁寧に見守る体制を構築しています。

30：入園のしおりやホームページ、SNSを通じて施設の概要や保育内容などを発信し、保育所選択に必要な情報提供に努めています。また、見学希望には随時対応しており、職員が説明を行いながら案内することで、利用希望者の理解が深まるよう取り組んでいます。

31：入園のしおりを重要事項説明書とし、わかりやすく説明する工夫をしています。写真等を取り入れたり、個々の事情や状況に応じて個別に説明を行うなどの取組をしています。

32：園児の転園の時は保護者の了解のもとで転園先に子どもの育ちについて情報提供をしています。また、転園後も一人一人の相談に対応しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

33：苦情解決の仕組みについては掲示物や入園のしおりで周知されています。また、寄せられた苦情は職員間で共有されています。苦情ポストは安心カメラの設置位置にも配慮して園内2か所に設置しています。

34：保護者が意見を述べやすい環境づくりに努めており、年2回の懇談に加え随時対応も行っています。担当職員を選べる配慮や、オンライン懇談の活用、個別の相談では安心できる空間の提供など、一人一人の状況に応じた柔軟な対応を心掛けています。

35：意見箱の設置やアンケートの実施からのご意見を職員会議やミーティングで共有しています。内容により園内掲示や園だよりなどで対応を公表しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a

[自由記述欄]

36：事故防止対策委員会を設置し2カ月に一度会議をしています。ヒヤリハットの事例収集を行い、検証・振り返り・改善を行う仕組みがありません。

37：感染症対策マニュアルが整備され、それに基づいて対応しています。環境委員が各クラスにおり、感染症予防や保護者への情報発信をしています。

38：保健計画に災害時の備えが明記されています。年に2回の防災の集いで子どもたちに防災に対する意識付けを行っています。

39：不審者対応マニュアルが整備され定期的に訓練をしています。合言葉を決めており、保育の中で子どもと訓練を行っています。警察や地域の防犯委員との連携をとっています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	b
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	b
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	b
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	b
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	b

[自由記述欄]

40.41：保育の標準的な実施方法については入園のしおりにも一部記載されています。今後は、保育がそれに基づいて実施されているかどうか確認する仕組みを整備されると良いでしょう。入園のしおりに記載されていないその他の標準的な実施方法を文書化されると良いでしょう。また、その実施方法の検証と見直しをする方法を決めておくとなお良いでしょう。

42.43：0～2歳児と特別支援児に個別指導計画を作成し保育しています。新入園児は個人面接を行い、その後の保育に活かしています。指導計画は定期的に振り返り・評価・見直しをしています。今後は、アセスメント手法を確立し、指導計画等の内容についてさらに検討されるとなお良いでしょう。

44：園児管理システムの導入により全職員が子どもの記録を閲覧できるようになっています。保育の実施状況の記録は職員によって差異のないように管理職が点検をしています。今後は、一人一人の職員が同質の記録を残せるよう、記録のルール化や相互確認などの取組をされるとより良いでしょう。

45：個人情報保護規程に基づき記録が管理されています。子どもの写真はipadで撮影し、職員が個人使用したり外部に漏れることのないように個人情報保護規程に則り園内の機器に保存・管理しています。今後は、個人情報の管理の重要性が職員全体へ十分に理解できるよう、定期的な研修や事例による勉強会などに取り組まれますと、より良いでしょう。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	a	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	b
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	a

[自由記述欄]

46：保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の成長・発達や家庭及び地域の実態に応じて「全体的な計画」を作成し、各クラスに掲示しています。また、各クラス職員の参画のもと、年度末には見直しを行う取組があります。

47：保育室内で発生した事故をもとに、その原因や対策を検証し、子どもたちが安全に気持ちよく過ごせる配置の工夫などに努め、生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境整備に努めています。

48：園では一人一人の子どもを受容する姿勢を大切にしており、特に0・1・2歳児に対しては少人数グループ制を採用し、一人一人の状態に応じた丁寧な関わりを行っています。3・4・5歳児にも一人一人のペースに配慮した関わりをより丁寧に持てるよう、集団活動と自由あそびの環境を組み合わせたり、段階的に活動へ参加できるようなグループ分けを行うなど更なる工夫を実施すればなお良いでしょう。

49：園では「自立支援」という保育理念のもと、年齢に関わらず子どもの「やってみよう」という意欲を尊重し、自分で取り組む姿勢を大切に保育を行っています。大人の援助を必要最小限にとどめ、子ども自身の力でできたという達成感の積み重ねで、自信と生活習慣の定着を促せるよう努めています。「自分のことは自分でする」という保育の風土が根付いており、手順や役割をイラストや表で分かりやすく掲示するなど、子ども自身が自ら行動できるような環境面でも工夫を重ねています。

50：縦割り活動が盛んにおこなわれ、節分の制作や絵本の制作など、子どもたちが自由に遊びを選択し遊び込める環境があります。年長児を中心に「共育ち」の理念が垣間見える活動の内容が展開されています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

51：0歳児保育では看護師を配置し、健康状態の把握と個別配慮を行っています。少人数グループで一人一人の思いを受け止め、安心できる保育が提供できるように努めています。グルーピングは子どもの姿に応じて半期ごとに再編し、徐々に集団活動へ慣れるよう配慮しています。今後は、時間や人数、雰囲気に応じた環境の再構成をどのように行うのかの認識や動きを職員間で共有することで、より安心できる保育環境の提供につながるよう取り組まるとより良いでしょう。

52：少人数グループを活用し、一人一人の発達に応じた丁寧な関わりを大切にしています。子どもが遊びを自ら選べるよう複数の素材やコーナーを用意し、自主性を育む環境づくりにも配慮しています。保育者は一人一人の思いに寄り添った関わりや言葉かけを行っています。更なる自在な活動の発展を見据えた環境整備を更に深めるため、素材の種類を増やしたり、コーナー間の距離や設置方法の工夫に努めるとより良いでしょう。

53：子どもが興味を持った活動を継続して楽しめるよう環境を整え、自ら考えて行動できるよう工夫がなされています。生活場面では、視覚的な掲示を用いて子どもが見通しを持ちつつ自分で考えて選択ができるよう配慮されています。今後は、くつろげる空間を作り出す工夫を行う中で、職員によって子ども一人一人への対応に差が生じることがないように、職員それぞれの役割の明確化やクラス内での保育のねらいや関わり方の共有理解を進めるとより良いでしょう。

54：障がいのある子どもに対しては個別の指導計画を作成し、通所先の発達支援事業所の支援計画をもとに園での支援に反映するなど、連携を図りながら保育が行われています。また、集団生活の中でも一人一人に配慮しようとする姿勢が見られます。今後は、障がいの有無に関わらず配慮が必要な子どもとの関わりに向けての研修参加や他機関との連携で得た情報の共有をさらに深めたり、保護者への理解促進も含めた情報の発信に努めるとより良いでしょう。

55：長時間保育に対応するための体制を整えています。時間外保育の指導計画は実際に保育に携わる職員が作成し、保育運営システムや引継ぎノートを通じて職員間の情報共有も行われています。地域の中で唯一土曜日に19時まで開園したり、平日の保育時間も19:30まで延長するなど、地域ニーズに応えています。今後は、長時間保育の利用者が増える中、大きな空間でなくても、間仕切りや視線を切れる小さな空間作りの工夫を行うことでゆったりと過ごせる環境の提供につながるとより良いでしょう。

56：月に1回程度という頻度で、小学校と連携する機会を持ち、小学校教員と会議や合同の研修に参加するなど、相互理解を深めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	b	b

[自由記述欄]

57：健康管理に関するマニュアルが整備され、救急対応の訓練も実施するなど、万が一の事故に備えています。また、0歳児では呼吸アラームセンサーを導入しSIDS予防への対策も行われています。

58：内科健診・歯科健診の結果を保護者に通知するとともに、職員への周知にも努め、保健に関する計画等に反映し保育に取り組んでいます。

59：アレルギー疾患に関しては、指定の診断書と指示書をかかりつけ医に記入してもらい、保護者から提出してもらっています。年度替わりごとに、全職員を対象としたアレルギー研修を実施し、共通理解を図れるように取り組んでいます。

60：収穫したものを、園庭で焼いたり炊いたりして食すといった活動を取り入れ、食に対する興味・関心が高まるよう取り組んでいます。さらに、「無人スーパー」というものが玄関に設置され、保護者と子どもが収穫された野菜を園で会話を楽しむといった食育も進められています。

61：調理担当職員と担任が定期的に給食会議を行い、子どもの喫食状況や好み、食べにくい形状などの情報を共有し、献立や調理方法に活かす取組がなされています。自家栽培の野菜を使用し、給食に使う食材を園内で無人販売するなど、子どもが食材に親しめる環境づくりにも工夫が見られます。今後は、これからの取組として予定されているように、調理に携わる職員が保育室で子どもの喫食の様子を確認する機会を増やし、より子どもに寄り添った献立や調理に反映できるとなおいでしょう。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	b
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	a

[自由記述欄]

62：連絡帳や個人懇談、送迎時の声かけなどを通じて、日常的に保護者と情報共有を行い、子どもの生活の充実に努めています。専用の連絡帳を用い、記録だけでなく行間から伝わる情報も大切にしており、丁寧なやり取りに努めています。今後は、保護者との深いやり取りに難しさを感じる職員の育成について、現在行われている主任からの話題提供の継続や、保護者対応後の職員間での相互評価などを通じて、更なる職員全体のコミュニケーション力向上に努めるとより良いでしょう。

63：意見箱の設置において、投函する様子が見えにくいようにといった細かな配慮がされています。普段から、話しやすい雰囲気があり、何かあればすぐに相談できる素地が感じられます。

64：虐待に関するマニュアルを整備しています。虐待が疑われる事案は、管理職と行政の担当者との連携をはかり、定期的に子どもや保護者の様子を見守り、情報共有を行う取組があります。

65：年2回行われる自己評価をもとに、自己の課題に気づけるよう取り組んでいます。また、毎月の月案の中に、一人一人の職員のチェック項目を記載することで、自己を振り返り、翌月にその反省を活かす取組があり、上司からの確かなアドバイスを受けられる仕組みもあります。